

吹田市総合計画審議会・第1部会（地域別計画・第1回）

開催日時 平成17年10月13日（木）午後6時30分～午後8時30分

開催場所 吹田市役所 高層棟4階 特別会議室

議事内容 1 吹田市第3次総合計画基本計画（地域別計画）〔案〕の検討

（1）市民意見に基づく修正について

①ブロック割について

②計画に係るものについて

（2）（仮称）JR以南地域の検討

2 その他

出席者（委員） 浜岡政好 衛藤照夫 三輪信哉 神保義博 豊田 稔 鮫島 匡
前田武男 山口克也 伊東利幸 河野武夫 西岡昌佐子（欠席3名）

（事務局） 清野助役 山中企画部長 池田総括参事 宝田参事 稲田主査
岡松係員

（傍聴人） 3名

議事要旨

1 吹田市第3次総合計画基本計画（地域別計画）〔案〕の検討

（事務局）

（配付資料 資料－30～35 資料の説明）

（部会長）

この間市民から頂いた意見、ブロック割についてと計画の内容に関わるものについての意見をふまえた事務局の修正等の報告である。これについて質問、意見を頂ければと思う。

（A委員）

各地区毎に少し詳細に地区分けをされて、説明を加えられたということか。私の記憶が定かではないが、各ブロックを超えてブロックの枠を変えた方がいいのではないかという話がどこかで出ていたと思う。その辺の検討はされたのか。

（事務局）

今回ブロックについて市民の意見を頂いた。前回の全体会でも山田・千里丘地域と五月が丘のところで、コミュニティセンターを中心にした住民の動きということで意見があったが、前回のの中では山田・千里丘の方自身が、そのような考え方ではないところもあるという意見があったので、特にそのことについては、山田・千里丘でもう一つの部会で議論を頂くので、そこで意見を伺おうと思っている。事務局としてはこの修正をかけることでそれなりには答えつつもりである。

(部会長)

現在の6ブロックを組み替えることは当面考えていないということである。

(B委員)

ブロック割りは変更しないということであるが、一応各ブロックの名称に関してJR以南地域と千里ニュータウン・万博・阪大地域が「(仮称)」となっている。これについて、「(仮称)」となっている名称の実際の決め方はどのような形で決めようと考えているのか。特に8月20日に(仮称)JR以南地域の市民説明会があり、私も参加させて頂いたのだが、その時にある出席者の方から「JR以南は、他の地域はちゃんと地域の名前がついているのに、十把一からげのような感じがする」という意見が出ていた。もちろんそれに対してJR以南と言えばJRの南だからそれでわかりやすく、はっきりしているという意見もあったように記憶している。いずれにしても「(仮称)」となっているので、もし正式な名称を決められる場合はどのような形で決めようと考えているのか聞きたいと思う。

(事務局)

今の意見については、(資料-30)の「基本計画(地域別計画)[案]に対する市民意見一覧」の113番に「(仮)JR以南が気にいらん。早く決めて欲しい。市報で募集すればいい」という意見があった。募集するには、期間的に難しい。できたらここでいい案があればというふうに考えている。事務局で特にということはないので、どこかで決めなければいけないとは思っている。

(部会長)

募集という方法は考えていないのか。

(事務局)

はい。

(部会長)

地域の人が、自分達の地域をこのような名称で呼んでいるというものはないのか。

(事務局)

まとめてということはない。旧町会や内本町や寿町の辺りは、昔の呼び名で自治会を呼んでいるということはある。

(部会長)

早く決めないと落ち着かないと思う。

(C委員)

吹田市政の発祥の地であり、昔の旧吹田村を広く呼ぶということであるので、そのようなイメージの名前がつけばいいと思うが、募集か何かをしなければいけないと思う。ここで決めるわけにはいかないと思う。

(部会長)

なぜ名前が上から降ってきたのかと思う。市民側からの何か提案はなかったのか。懇談会の際にこのような名前にして欲しいなど。

(事務局)

なかった。

(D委員)

可能性としては「(仮称)」が外れるだけしか案はないのではないかな。

(B委員)

尋ねたいことは、この「地域整備の方向」という冊子の中では、「国鉄以南地域」となっている。国鉄がJRに変わったから「JR以南地域」となったと思うが、わざわざ「(仮称)」とつけていることについては、何か考えがあつてのことかと思ひ尋ねたが、聞くところでは、今のところ特にないということで、やはり地域の人たちが愛着を覚えるような呼び名があれば一番望ましいのではないかなと思う。ここで決めるということは、具合が悪いのではないかなという気がしないでもない。

(事務局)

「(仮称)」という表現をしているのは、従来のブロック割でみると、岸辺南1丁目から3丁目。南吹田1丁目から2丁目すなわちJR以南すべてブロックの中に含まれていたのでJR以南という言葉は、名前は別として、地形というか位置的には正しいということになっていた。しかし、今回はコミュニティの概念で入れ替えをしたので、そのような意味で少し表現が正しくないと思ひ「(仮称)」とした。

(事務局)

宿題としてはどうか。

(C委員)

名前というものは、どのような地域にしていきたいかということが含まれているわけであるので、是非名前をつけるべきだと思う。審議会で決めるのであれば宿題としても結構である。そうすれば私も精力的にいろいろ考えてくる。何かいい名前を考えたい。

(部会長)

ではまだ「(仮称)」でしばらく置いておくことにする。千里ニュータウンの方も「(仮称)」となっているのは、同じ意味か。

(事務局)

そうである。(地域別計画) [案] の(巻末資料)に今回ブロックの区割を変更した地図をつけている。これによると先ほどのJR以南の部分が一部他の地域に変更していることと、千里ニュー

一タウンのところは万博・阪大地域と一緒にしたということがある。エリアは分けているが、そのような意味で「(仮称)」ということにさせて頂いている。

(部会長)

「千里山・佐井寺地域」、「片山・岸部地域」等も部分的に変更している。現実には言えばそうなっている。

(E委員)

長年、国鉄以南地域、現在はJR以南地域として極めて自然に受け止めていた。急遽このような席上で、JR以南という言葉がこの場で決着をつけようとしても、JR以南は相当歴史家の方が多い。祭りの山車でもお互いに競い合うような、特別愛着を持っている地名が多いところの中で、我々がこの席上でJR以南の名称を決めると、地元では大喧嘩になるような感じがする。仮にJR以南を個別な具体的な名前にしようかと思うと、JR以南の方にいろいろ集まってもらい、決めてもらわなければ、この場で我々が決めることは、あの祭りの山車の争いからみると、お互いにどこが先に行くかで争っている地域だから、相当厳しいということが今まで長年の私の気持ちである。

(F委員)

今となっては。JRが開通する前は、神社別に大字や村で千里村などの歴史がある。JR開通後は以南、以北という分け方になった。片山町1丁目は泉殿宮の氏子である。3丁目、反対側産業道路の北側は片山神社の氏子である。

(F委員)

今は片山町1丁目も3丁目の人も同じ片山の住民という意識を持っている。昔はそうではなかった。歴史ができてから、100年にもなると意識は変えがたい。地域住民の意見を聞かなければ、E委員が言われたように難しい問題である。

(部会長)

6ブロックについても相当、ある意味でだんだん馴染んできて、逆に言えば不自然さも市民から自覚され、意識されてきたということである。

(F委員)

将来的な問題としてそろそろ考えていかなければならない。10年先か20年先かはわからないが。

(部会長)

区分けの問題はそのくらいにしたいと思う。

(E委員)

(資料-30)の「基本計画(地域別計画)[案]に対する市民意見一覧」の171番に「地域別計画(案)では、交流活動館、青少年クリエイティブセンターのことが抜けている。入れるべきで

ある。岸部中地域を人権の発信基地として位置づけるべき」という意見がある。人権の発信地であるということを明記するような形は知る限りで結構であるので、他の市であるのか教えて欲しい。

(事務局)

地域をそのようなことで記述しているということはありません。全市に発信する施設としての役割ということは指摘の通りである。地域の中には入れずに、第2章の共通のところにその意見を入れたのである。

(E委員)

人権即この地域だと言われることもどうかと思う。同じく(資料-30)の「基本計画(地域別計画)[案]に対する市民意見一覧」の183番であるが、「JR社宅の有効な活用」とある。今ほとんど空き家状態になっているJR社宅のことかと思う。同じく185番に「片山のJR官舎ほとんど空き家になっている。民間に転売されマンションが建つということはないか心配(計画性のない開発は千里丘の二の舞になる)」となっている。要するに、ほとんど空き家になっているJR官舎を私共は民間活用してあの地域の活性化を図りたい。それが商店街等々の活性化になるという思いを持っているが、この論理でいくと変なマンションを建てるな。吹田市が民間施設を利用するために土地を買って欲しいという思いの表現かと思う。この辺については整理しておかなければ、広大な敷地であるので、吹田市として今後どのように取り組むのがいいのか。一つの尺度をつくっておかなければいけない時期ではないかと思っている。吹田市があつた施設を買い占めて何か施設をつくれということも、とてもじゃないけれども施設的にはっきりいって箱物は必要ない。私としてはマンションをつくってもいいと思う。先ほどの人口動向をみれば片山地区は相当高齢化していて今後10年の間に1万人が減少する計画となっている。片山・岸部地域の将来人口の推計表をみると、平成12年度は47,957人で何とかこの数字が出たとして、平成17年度には46,947人に落ち込む。平成37年においては38,809人と、1万人もの減少を示す推計地域である。このようなことを食い止める、あるいは活性化するためにもJR官舎の跡地は民間活用すべきではないか。民間主導を取り入れるべきだと新規の基本計画の中に取り入れるべきではないかと思っている。

(部会長)

地域別計画で市として、そこについて何か方針や考え方を検討されたことはあるか。

(事務局)

この件に関しては今の地域別計画の中の記述にはうたっていない。今のE委員の意見に関しては、議会の方からも何度か質問を受けている。今のE委員の意見としては、民間に活用させて活性化を図ればどうかということだったが、その他にもいろいろな意見がある。確かに片山のJR官舎のところは、現実には空き家が多くなり閑散としてきている。このまま放置しておくとならばJRさんが普通の形で売られて一般の開発がされるだろう。ただ開発に賛成とも反対とも市としては意思表示をしていないが、もし開発されるようなことがあるのであれば事前に市の方に相談して頂いて、市のまちづくりに合うような開発をお願いしたいと常に申し上げているところである。そ

れについてJR側も必ず開発について検討する場合には、事前に市の方にこのようなことを考えていると報告し市の意見を伺う、という返事は頂いている。それも議会の方でも答えていることである。

(F委員)

E委員の意見のように住宅地という話が出てきた場合には、市がそれを買い取る、あるいは第三セクター的には考えているのか。

(D委員)

乱開発をしないような方向で指導してほしいと議会サイドではお願いしているのである。民間といってもJR自体が民間企業であるので、何をしてもいいような状況になっている。ただ民間だから何をしてもいいのではなく、節度のある開発をして下さいと市の方で行政サイドとして訴えていかなければいけない部分だと思う。

(G委員)

限定はできないのか。この辺は住宅地にしなさいなど。

(F委員)

今、国の方で「まちづくり」ということで、用途地域としての位置付け、乱開発は行わないということは、恐らく来年の通常国会には、まちづくり三法の改正も含めて出てくるかとは思われる。今の意見のように乱開発ということはないようお願いしたい。国の方でもそのような権限を地方の府や県あるいは市、地方自治体の方に移していくということを言っているのだから、そのような動きになってくると思う。吹田市長の権限あるいは大阪府知事の権限ということがもう少し強化されるような動きになってきているようである。来年おそらく通常国会までには早ければできるのではないかと思う。

(E委員)

乱開発という言葉そのものがどのような範ちゅうを言うのかということになると思う。つまりお構いなくマンションを建てるから乱開発なのか。開発をしてもらうが、この地域については公園が必要であり、この地域については学校の許容量を考えて学校施設の拡大の予算も必要である、というような折衝の中での開発をしてもらえばいいのである。基本的にはマンションを建ててもらい、それに見合う公園を建ててもらい、それに見合う公民館を建ててもらいというきちんとしたスタートラインに立たなければ。単にここに書いているように、「民間に転売されてマンションが建つのではないかと心配である。」という意見にJR側も身構えてしまうと思う。ある意味では長年の債務を早く消化しようと思えば、建てることは自由である。その辺で、吹田市の基本計画としては、マンションを建てても構わないが、それについては、公園等の敷地は押さえようということを含めて、話をスタートラインに乗せる段階にきているのではないかと思う。その一つに既に切り売りが始まっている。市民病院に抜ける道路のすぐ左手に広大なマンションの敷地が入っている。切り売りが始まり、最後には全部がマンションになったということにならないためには、D委員の意見のように前もって吹田市がきちんと話を詰めて下さいということは当然必要である。

吹田市としては、そこにマンションが建ってもいいが公園、公民館を建てて下さい、ということ
を早く取り決めを開始しなければいけない時期にきているのではないかと思います。そのような意味
での基本計画をしていかなければならないのではないかと。

(部会長)

今のような意見を少しどこかに盛り込むかどうかということである。現在の記述ではほとんど
盛り込まれていない。市民意見としてこのような意見が出てきているということは、資料として
はあるが、原案にはほとんどその辺を触れられていないのではないかと。

(A委員)

今のE委員の意見を聞いて思うことは、私は環境サイドなので、どうせ建てるのであれば、そ
こはエコシティであってほしいと最初から望むのである。そのためには雨水はどのように使って
ほしい、防災上貯留地になっているのか等いろいろなことを盛り込んでほしいと最初から思う。
そのようなことは地区ごとの議論でもあるが、全市で開発が起こった時にはそのようなことを配
慮するように、仕組みをつくらせているのかどうかこれから重要なことである。例えばそれな
りに高層マンションが多く建つと、明らかにこれからはゴミ問題として、ゴミが増えていくこと
になり焼却場がまたパンクするという問題にも至るとも限らないのである。あるいは集中豪雨の
時にどこかで都市内洪水が起きることもあり得る。建てるということは絶えずまわりに配慮しな
ければいけないということが、どこかでうたわれているかどうかということである。それがどこ
かで盛り込まれないかと思う。それは今言われている地域以外でも起こり得る都市問題であると
感じる。

(部会長)

それはむしろ全ての地域に共通する取り組みの、例えば「環境を守り育てるまちづくり」など
の中に入れるということか。

(A委員)

もちろん先ほどの小学校や公民館のことも全部含めてである。

(事務局)

開発の問題は相当議論されて、開発に関する条例を吹田市は持っている。それをきちんと動か
していくということと、住民との事前の協議をきちんとすることを部門別計画の中で触れ
ている。

(A委員)

E委員の意見のように、特別の地域で心配されるのであれば、個別計画の中でやはり議論して
記述し、動きがあった場合には、ここに書かれていると言えるようにした方がいいかもしれない。

(E委員)

この10年であれほどゴーストタウンになるとは夢にも思わなかった。大阪高槻京都線から山手

に抜けるセンターの道があるが、その両サイドはほとんど空き家である。夜この時間から通るとは怖い。完全なゴーストタウンであり、この5、6年続いている。後10年待ちなさいとなれば、とてもではないけれども絶対に問題が起こる。従ってあの地域の開発についてJRはどのように考えているのか。このように考えているという意見交換を早くして頂きたい。これをきちんと片山・岸部地域としては早くそれを載せてもらわなければ、とてもではないけれども、奥さん方はあの道を通るのは怖いと思う。皆とても遠回りしている。山手の方から遠回りして豊津駅を抜けて市役所の方へ向かうというコースになってしまっている。男ですら真っ暗であるので、今あそこを通ることが怖い。いわゆるゴーストタウンである。吹田市にゴーストタウンが今ある。

(F委員)

あの辺は公園や消防署、あるいは税務署をあそこへ持って行き、全部済ますために、つくることが一番いいのではないか。

(E委員)

だから「基本計画（地域別計画）〔案〕」の中に、そのような場所については今のエコライフを含めて早急な解決を望むというような文章を入れておかなければならないと思う。

(事務局)

一応そのような地域については、このような開発をしたいという場合には、先ほど言ったように、市の方でも通称であるが、すまいる条例を持っている。それ以前にその条例の協議に入る前に、何かの開発を考える時には、事前にJR西日本としては売りたいということを何年か前に申し出て下さい。市の方でも対案を考えて、ここには学校のことも考えて下さい、公共施設のことももし売られるにしても考えて下さい、というような条件付けもあるだろう。住民の方の意見も我々が聞いて、JRにもものを言わせて頂くということは申し上げている。

(F委員)

市として、一応歯止めはかかっているということか。

(部会長)

市民の意見のところにも、不安というか、後どのようになるのかということが相当関心として出てきている。この関心のありようはいろいろあると思うが、そのようなものに対して、地域別計画の地区のところのどこかで、今言われたようなことを触れておくことは可能なのか。

(事務局)

千里丘のところは相当開発されたということがありますが今の（資料-35）の「基本計画（地域別計画）〔案〕」の修正〔提案〕の「第3章」の「V」の「第1節」の②において、「地域内の比較的まとまった緑の保全を…公共施設の適正配置に努めるとともに、良好な住環境の保全と育成に努めます。」と書いている。全体に緑が多いところなので「土地所有者や開発事業者などの協力を得ながら、緑の保全を図ります。」と書いている。「学校をはじめとする公共施設の適正配置や幹線道路の整備に努めます。」「大規模な開発に対する住民意見が反映される仕組みづくりを進

め、良好な住環境の保全に努めます。」とあり、一応この地域はこのようなことを記述している。今の片山・岸部地域については、①のエリアである。(資料-35)の「基本計画(地域別計画)[案]の修正[提案]」の「第3章」の「Ⅱ」の「第1節」の①に、「片山公園を緑の拠点とし、周辺を整備されている…交流広場づくりを進めます。」と書いている。このように地域を壊さないようにという思いをつけて、①を広く取っている。庁内の議論の中ではそのようなことを想定しながら、このエリアを少し広めに取っているということはある。ただ、読んでいる人にはわからないということはある。

(部会長)

特にこれから再開発が進む時にどのような方向かについて、多少市民の側からすると、不安な気持ちも出ているようであるので、それをどこかで対応できている、このような仕掛けがある、ということをごくどこかに書き込んでおいた方がいいのではないかと思います。

他に何かあるか。片山・岸部地域に関しては、次回検討することになるので、今日は、市民意見に基づく修正の全体についての事務局から出てきた意見についての見直しとして、何か意見はあるかということなので、一応修正についてはこれでよろしいか。

(D委員)

文言のことで恐縮であるが、(資料-35)の「基本計画(地域別計画)[案]の修正[提案]」の「第3章」の「Ⅰ」の「第1節」の③の「基本方向」に「子どもや高齢者など、誰もが安心して暮らせるまちづくり」とあるが、「子どもや高齢者など」と書いているところと、「子どもなど」と書いているところとの違いがよくわからない。高齢者をはずしているなど、この辺の違いはともいい加減な感じに受け止められる。「誰もが安心して暮らせる」ということだけでいいのではないかと思います。何か意図があるのか。

(事務局)

当初入れた時は、JR以南地域のところは、学童保育に通っている子どもが多い状況にあり、また高齢化が進んでいるということがあったので、ここに「子どもや高齢者」という表現にしている。豊津・南吹田地域のところであるが、ここは「子どもの人口が増えている」ということがあったので、「子どもなど」としている。豊津・南吹田地域全体でみていたので、高齢化の状況があまり出ていなかった。そして子どもだけ引っ張り出したような表現をした。先ほどの(資料-31)を細かくみていくと、豊津・南吹田の中でも吹二地区のように高齢化しているところがあるので、やはり同じ表現にするべきだと指摘を受けて感じた。

(D委員)

結局は「誰もが」とつながると、「女性や若者など」その地域で特色があるからあえて書いているということでもなく、常に「子ども」は出てくる。「高齢者」が出たり出なかったりする。他の「若者や熟年層や女性」は一切出てこない。後は「誰もが」となるので、その辺に違和感を感じられて申し上げた。

(部会長)

「子どもや高齢者など」となっているところと「子どもなど」となっているところは、いくつか表現の違いはある。その地域の中でそれだけ「子どもの比率が高い」などの背景は一応あるようだが、あまりそこを強調せずに「誰もが」でいいのではないかという意見である。あえてこのように出すと、書かれていないところが反対に意識されてしまい、どう違うのかと受け止められるので、なくてもいいのではないかという意見だと思う。これは第2部会とも関連することであるので、そこも含めてシンプルにした方がいいということで調整できれば、そのような形で文言の修正を行いたいと思う。第1部会だけでということにはいかない。

(事務局)

「基本計画（地域別計画）〔案〕」の「第2章 すべての地域に共通する主な取組」に、高齢者や子どもの問題はあげている。あえてまたこの地域であげるということで「子どもがとても多い」、「若年ファミリー層が多い地域」、「高齢化がどんどん進んでいく地域」など、そのような地域性をやはり出した方がいいのではないかということで、「第3章」の方は、他と違う部分をむしろ引っ張り出して書くような形になっている。どの地域も共通して取り組まなければいけないことは、「第2章」で基本的には押さえようということである。どこも同じ表現にしてしまうと地域別の特徴がなくなるのでどうなのかなと思う。

(部会長)

そのようなことを意識して、わざわざ文言の使いわけをしているということである。どうだろうか。

(D委員)

その辺はあまりこだわっても仕方ないと思う。

(資料-35)の「基本計画（地域別計画）〔案〕」の修正〔提案〕の「第3章」の「I」の「第1節」の①であるが、江坂のブロックの名称については、以前にも意見をした。「(仮称)」がっていないことは別として、「商工業者の交流の場づくりを進め、江坂が商工業の核となるよう支援します。」があるが、実際に工業は芳野町の一部であり、すごく限定されている。吹田市内で工業に携わっている方から、優遇してくれないという不満を以前から聞いている。これはひとくくりに「商工業者」と書いている気がする。本当に工業の方に対しても、きちんとして頂いているのかどうかは疑わしい。江坂の場合は基本的には商業の活性化を図って頂くということはあるが、工業まではとてもとてもという感じがする。本当にこれをして頂けるのであればこの表記でいいが、そのような思いがあるのかどうか確認したい。

(E委員)

ひとつの単語になってしまっている。

(D委員)

他のところでは「商業者の」という表記もあったと思う。

(事務局)

細かく商業、工業などがあるが、一応商工関係は今「振興ビジョン」というものを別途つくっている。その中で細かく記述しているところがあるので、その辺は大きくくくって表現させて頂いた。意見交換をして頂いて、やはりもう少しはっきり書くべきだということであれば、修正を加えたいと思っている。

(部会長)

その辺について何かあるか。別にこの表現が悪いというわけではないと思う。

(D委員)

もちろん結構である。して頂けるのであればいいのである。

(事務局)

「①江坂」は、江坂のところを中心にしていて、「③この地域全体」のところでは、下から2つ目に「工業の高度化や環境に配慮した事業活動を支援し、都市型工業への展開を図ります。」とある。この地域全体にまたがっている工業については、「③この地域全体」のところで、触れているという形をとっている。

(D委員)

これも本当にして頂ければ喜ぶ方が大勢いるので、どのような配慮をして頂けるのか楽しみである。

(部会長)

文言に修正意見があるということではないわけか。

(D委員)

違う。

(H委員)

「江坂」という言葉であるが、「江坂」とは具体的にどこからどこまでの範囲が入っているのか。具体的にこの道路のここまでということがないだけに、表現的にこれでもいいような気もするが、よくない気もする。なぜそのようなことを言うのかについては、江坂駅周辺には、商業業務機能と高層マンション等があり、子育てをしている方々がたくさん駅前にもいる。そのような意味での住宅としての部分を決して捨てきれない地域である。特に江坂の西側もそうであるが東側の高層マンションが最近林立してきて、ここの子どもたちは一体どこで遊ぶのだろうと思うと、本当に江坂公園だけでも足りないということを感じた。そのような時に、これ以上江坂駅周辺の商業業務機能を集積させていくという形の表現が本当にそうなのかと疑問に思う。この地域全体では子どもが安心して遊べる場であるということも書いているが、江坂駅周辺を含めて、あそこは職住接近、ファミリーのまちとして、その中に商業もあり業務機能もありという形で、非常に見事なバランスが自然にできてきている建物である。そのようなところのファミリー層が子育てでも

きる、というような表現を入れて頂きたいという感じがする。そのような意見は出ていなかったのか。どうしても江坂企業協議会や江坂まちづくり協議会の中でも、自治会長などの発言の機会が少ないので、そこで商業をしている方や業務をしている方の意見が出てくる。例えば自転車排除をどのようにするのか、という問題についても、結局は駅前のスーパーまで自転車に乗ってくる主婦の方の意見は、その場では出ないのである。だからといって放置していいという訳ではないが、どうしても業務をしている人の目でしか見なくなってしまうので、是非ともそこで住んでいる方や子育てをしている方の目も意識して表現を書き換えて頂きたいと思う。

(部会長)

「③この地域全体」には子どもの記述があるが、上の「①江坂」にそのような視点を入れて欲しいということか。

(H委員)

そうである。この「江坂」とは、どこからどこまでを「江坂」と言うのかわからないので、本来に駅から100mの範囲であればこの表現でいいとは思いますが、200mになってしまうと…。

(事務局)

「基本計画（地域別計画）〔案〕」の「第3章」の「Ⅲ」の地域マップにエリアを記入している。

(H委員)

これは非常に誤っている。例えば②のエリアだが、細かいが豊津西中学校から南側地域まではどちらかと言えば会社などのビルが多いところである。本当の意味での②の榎坂というものは、名神高速道路からもっと北の地域が入ってくるが、そこには全然印がついていない。そのような意味では、この色の塗り方は本当にいい加減である。これでは正確に榎坂の場所がわからないのではないか。榎坂はどこだと思うか。名神高速道路よりも北の地域を言うのだが、そこにはかかっていない。江坂町の辺りである。この辺は「榎坂・蔵人の旧集落」と言いながら、江坂町にはかかっていない。

(A委員)

H委員の意見では、いわゆる地名と私たちが江坂と言うとネオンが光っていると思う場所とは違うということか。

(H委員)

そのような意味ではない。ネオンが光っているところも江坂である。

この辺の人たちにも子どもたちが暮しやすいように、例えば一つの道路を車が通ることを優先にするのか、歩道、コミュニティ道路にするのか、あるいは自転車を置けるようにするのか、自転車を排除するのかということなど、いろいろな問題もあるので、住民の方も住んでいるという表現になってくると、ある程度の駐輪場を有料でも設置しましょう、という微妙なところでの話が具体的に行われているのである。そのような意味では、江坂企業協議会にヒアリングし、業務を遂行して下さいと言われたのでそのまま入っていると思うが、そうではないと思う。反映

されていない市民の声もあるということを確認して頂きたいだけである。

(C委員)

先ほどの「子ども」か「高齢者」かを頭につけるかどうかについて悩んでいたが、そんなことを言っているとどこにでもつけなければいけないのである。子どもが多いところなので子どもに住みよいまちにすると、何年か経過して高齢者が増えてきた場合どうするのかという話になる。今の意見のように江坂でも、本当の中心市街地でも子どもがいる。それをどのようにするのかという話になってくる。そこまでは逆に言えばここでは書ききれないのではないかと思う。特徴を出すという意味で「子どもや高齢者」と書くのであり、言葉が少し違うのではないかと思うことはあるが、そこを上手く書き、どのような場所でも人は住んでいるので、吹田の場合は東京でもなく大阪の梅田でもないで、どこでも人は住む。そのような意味で全体的に言葉を入れるぐらいで、後は特徴だと思いながら入れなければ仕方がないのではないかと思う。だからH委員の言っていることはわかるが、だからといって全部そのような議論していくと同じになってしまう。

(H委員)

先ほどE委員が片山地区の話をしていた時に、このような時にこのようなことを言うことはとても大切なことだ、と思いながら聞いていた。私も同じぐらいの気持ちである。ただ言える時に言うておくという気持ちである。

(部会長)

この地域の特徴はこうであるが、そうではない人たちが暮らしているということを忘れないということか。

(C委員)

それをどこか全体像で書けばいいということである。

(H委員)

ここにいる方、行政の方が認識して頂ければいいかと思う。

(部会長)

どのようなニュアンスで書くのか難しい。

(事務局)

この地域別計画の議論をした時に、一つは地域別計画というものは、そこにある特色をまず伸ばそう。それからそこが抱えている問題、課題を解決することが必要であるという2つの部分で議論を進めた。だから豊津・南吹田地域のところは、やはり江坂という商業・業務機能が集積した場所であるので、ここをどのように吹田の中心部として発信していくのが豊津・南吹田地域では大事であるということで①とした。特色の部分であるので、商業・業務機能ということが中心に据わっているということになる。朝日町のところであれば旭通商店街が特に中心にある商店街としてあるということで書いている。言っているように、それ以外のいろいろなことがその地

域にはあることは確かであるが、特色としてまず押さえたということである。

(H委員)

江坂は、根本的に東急ハンズが来たということが発展の契機にあるわけである。これは基本的にファミリー層がターゲットである。つまりどのような商業地域なのかと言えば、ファミリー層をターゲットとし、そのようなイメージでそのまちができあがっている、若い人たちも来ているという形である。そのような意味では、ここの商業は普通の商業ではない。朝日町の商業でもなければ梅田の商業でもない。江坂で発展してきた独自に子どもを大切にす、子育て世代を大切にすような商業の発展の仕方ができてきている。そのようなところをちゃんと認識して頂きたいと思う。そのようになれば具体的には、大型児童館のようなものがこの辺りにあれば、この辺の商業振興にとってもプラスとなると思っている。とにかくそのまちの基本的なあり方として、単なる商業・業務機能ではなくメッセージを持ったまちであるという意識が必要ではないかと思う。

(I委員)

これからの課題と言えば、江坂という繁盛した商業地にいろいろな企業群が入ってきたことは事実であるが、バブル崩壊後実際はその企業のビルがマンション化され、高い利便性から高齢者の方などの世代が入ってきている。将来的なことを先ほど言われたが、それに対して都市の住環境をどのように行政が行おうとしているのかについて、もう少し入れて頂いた方が我々としては将来性に対するビジョンであるのでいいのではないかという気がする。今、他から来る人は江坂は新大阪に10分で出られるということと、千里中央から名神高速道路に入れるというだけで来ている。本当の商業、または商売を行っている方の実態ということは、おそらくマンション内に事務所を構えて簡単に行っている方や、パソコンやネットワークで行っている商売が入っているだけに、本当の商業的な集約しているような地域になってきているのかは、おそらくこの10数年間で変化してきていると思う。それを踏まえた上での新しい江坂地域の新しいまちづくりの方法をもっと提案していく形を含めて模索して頂きたい。これまでの内容と変わらないということは心もとない部分だと思う。

(A委員)

去年専門部会で、この地域のことを話した時には、H委員の意見のようなことは全然頭になかった。江坂のところで聞いていたイメージは、最近パチンコ屋が出店してきて非常に治安が悪い。女性が朝早くあるいは夜遅く歩いても襲われるような地域であるという問題、新しい企業群がそこから発祥しているので先進的な特徴的なところで、快適なオフィス環境を整えていくというイメージで江坂を聞いていた。今H委員の意見を聞いていると、何か下の部分には商店があり上の部分には子どもや高齢者が住んでおり、職住近接のとてもいい町内会が出てくるような感じがする。例えば欧米でも高層ビルをつくり、あまりにもオフィスビルを集積させてしまった結果、夜は人がいなくなり犯罪が増えた。そこで次の提案としては、そのようなオフィスも4、5階で留めておき、そこには皆が普通の生活をしているという持続可能な都市というビジョンが打ち出されてきている。そのようなことだけ聞くと、非常にほのぼのとしたそのような地域が逆にふっとできあがる可能性を持っている。それが今年の議論の中では全くなかったことであるので、新し

いビジョンかと思う。

(事務局)

江坂のイメージとは少し違うのではないかという気がする。他の方々がどのように思われているのか。

(A委員)

去年の議論と今日の議論はイメージが少し違うので、その辺のところについては私がかわっているわけではないので、実態はどうなのかということも含めて、もしH委員の意見の通りであれば色合いが変わってくるのではないかという気がする。

(G委員)

線路を挟んでの部分は会社やそのようなところが多い。1本裏に入ったところがマンションなので少し違うと思う。

(C委員)

コミュニティビジネスという話もその時出たが、職住近接ということは非常に大きなキーワードである。これからの都心のあり方の一つの提案である。そのような意味では、表側は大きなビルが立ち並び変わっていかないが、1本道を入ったところにそのような職住近接の新しい形の商業が発展していくと、先ほど言われているようなイメージのまちになっていくことは十分あり得ると思う。今のところそれがないので大変怖く、裏側はどちらかと言うとピンサロとは言わないがそのようなスナック等が多い。そのようなところが増えてきているという現状がある。今はやはり先ほど言われたようなイメージが強いと思う。それを良くしていきたいという気持ちを込めて、ここには書くべきではないかと思う。

(H委員)

とりあえず江坂の人やダスキンの方など元社長の方といろいろ話をすると、江坂を十三にしてほしくない。ただそれだけであると言う。ピンサロの話やパチンコの話も出たが、私は地域をみて、これだけ明るい空気が漂っているまちは、北大阪、大阪中でもないだろうというくらい空気が若くて元気である。これは確かに今まで通りの従来型の風俗に近いような産業がそこに入ってきていることを指摘するわけではなく、もっと残っているいいところに目を届かせてそれを育てていく、それを守っていくという形のまちのつくり方をした方がいいのではないかと思う。

(部会長)

基本的にはファミリーや若い女性が来ても、ショッピングするにしても何をするにしても、楽しくて、安心できるようなまちにしていくことは絶対である。ここも次回の時に地区別で全体議論することになっているので、その辺の細かいところはそれぞれ地区別で議論したいと思う。今日はJR以南を集中的に議論したい。とりあえず事務局側の修正案を聞き、今日の話全体の意見が出たので、これから少し残された時間をJR以南の名称については議論したが、中身についてJR以南のところで市民意見や今回の修正案をみて意見を頂ければと思う。

(I 委員)

吹田市における中心市街地はどこか。

(F 委員)

やはり J R以南の旭通商店街だろう。

昔というか今もそうであるが、他市からみると吹田市の旭通商店街はこの北摂では知られた商店街だと思う。南にいけば千林商店街などと並んで、この旭通商店街というところは昔から有名なところである。北摂では賑やかなところである。少し今は凋落したが今でも中心市街地である。終戦当時、私は終戦当時いないが、終戦から 10 年くらいはとにかく物を並べると暇がないくらい売れていったそうである。ダイエーさんが来てからはそのような傾向はなくなった。箱の中に入っていて出ないと言われている。ある意味ではダイエーには相当期待はしている。個別名をあげるとよくないが、亡くなられた榎原市長は、毎日 40 万人の人を周辺から呼んでくる。茨木あるいは相川、東淀川辺りからどんどん来るし、乗降客は増えると言われたが乗降客も増えていない。ただそこには既存商店街の中にぐっとねじり込んできて周辺の商業者のものを吸い上げていった。売上げは全てそこに入っていたという人もいる。全部とは言わないまでも旭通商店街、片山、相川などいろいろなところから吸い上げていった。だからあの辺が衰退していったという言い方をする人が多いのである。とは言いながら依然として旭通商店街は中心市街地である。

(I 委員)

吹田まつりでもメインストリートとしてあれだけしているので、大体はイメージされていると思うがもう少し明かりがないものかと思う。

(F 委員)

昔は新旭町通りは闇市と言われていた。今はそのような表現が適切かはわからないが。新旭町通りなども通れなかった。じっとしていると後ろから押されて自然に前に行き、消防署の辺りまで押されていくぐらいだった。今は自転車に乗ってすつと通れるくらいである。それだけ周辺郊外にイズミヤ等の大型店ができてきた。農地を潰して量販店ができた。無差別にマンションができるなどしたために中心市街地が空洞化した。いわゆるドーナツ化現象を起こし、外に広がっていった。交通のモータリゼーションもあり、駐車場もたくさん入れるところということである。昔は、千里ニュータウン辺りからバスが朝日町に人を運んでいた。今は本数も減りゆっくり乗れるようなバスが運行されている。そういう時代である。昔から言うと、ある人に言わせると感じとしては昔の 10 分の 1 かなと言え、いや 20 分の 1 だと言う人もいる。それくらい流行った場所である。今はどこでも中心市街地が無灯化している。いわゆるシャッター通りとなってきた。やはり何といっても中心市街地は旭通商店街である。

(I 委員)

あそこは一番公共施設もあるのでいいと思う。何か試験的にするなど、あの時の夢をもう一度ではないが、何かしなければと思い意見させて頂いた。

(B委員)

今F委員が言ったように、「旭通商店街」とわざわざ書き出しているわけである。どんどん店が潰れている。私事で恐縮であるが、定年退職後、時々荷物持ちに来てくれと言われ、買い出しの際荷物を持ちに行くのだが、通る度に閉店している。特にコミュニティセンターがある側の旭通りは本当にひどく、次々店が潰れている。たまたまある時そこを歩いている人が「ここはもうアカンで」と言いながら歩いている、ということが現実の商店街の姿である。確かに今でもたくさんの人が来ていることは来ているが、何しろ自転車がたくさん並んでいる。特にJRに近い側は自転車置場が新しく改装されてきているが、それではとても足りない。そこへ持ってきて道路には買物の車が並んでいる。あれで事故が起これないことが不思議だと思うくらいの状況に一方ではなっている。しかしその周辺でも、一番目立っているところは米屋と酒屋がどんどん閉店している。これはやはりスーパーなどができ、安いお米を売っている。お酒でも専門店がずいぶん安い価格で売られていることが大きな原因だと思う。従って(資料-35)の「基本計画(地域別計画)[案]の修正[提案]」の「第3章」の「I」の「第1節」の①の「…消費者との交流やまつりなどを通じ、幅広い層の人びとでにぎわう商店街づくりを支援します。」となっている。確かに吹田まつりの時はすごい人で賑やかなまちだという感じはするが、どんどん店が潰れて今や昔の面影がどんどんなくなりつつあるということが現状である。それから放置自転車、違法駐車は、本当に制服着た人が駐車禁止の札を貼っているが、ワイパーに挟んでいるものを握って捨てていくという状況である。あれは何とかなければいけないと思う。一時とても熱心な年配のボランティアの方がいた。その時は自転車をきちんと整理していたが、残念ながらその人が立ち去るとまた乱れてしまうという状況である。この辺り商店街としては随分力を入れて、本当にこの言葉通りに力を入れていかなければいけないのではないかという気がする。

(E委員)

吹田市の中心市街地はどこかという問いに、単的に旭通商店街界隈を中心とするJR吹田以南だという即答の言葉が出た。そのような会話の中で確かにそうだとは思いつつ、反面江坂を第二の拠点にしようという動きがあった。その時になぜ江坂を第二の拠点にしようとなったかと言うと、当時アシックスの社長である鬼塚氏が、江坂の駅に降りた時に見回して、こここそがこれからの日本の発信地であると。空港には近く、新幹線にも近い、御堂筋はすぐに乗れる。交通機関が全て江坂に集まってきている形態であるので、ここをアシックス本社にして、全国にスポーツ用品を売り飛ばすということで社長が本社を置かれたという話は30年ぐらい前だと思う。それがいつの間にか撤退してしまった。あの頃はバブルで江坂の土地が日本の土地のデータを示すと言われた。江坂の土地の値段が上がればこちら上がると言い、あの頃に土地成金の方は、江坂は全国一位だったそうである。第二のまちは江坂にしようとした政策者が誰かいたかもしれない。あれ以来JR以南の旭通商店街がさびれていったことは事実である。どっちつかずになってしまった。アシックスは撤退し、ダイエーも撤退した。あの時に本当に江坂駅を中心として全国の発信基地としての交通網の形態があり、さすが鬼塚氏だと思っていると、あれから10年くらいでいなくなった。これは土地がとても値上がりして、とても維持できないということで西宮に移られた。あの土地は、吹田に大きな悪いものを残してしまった。私は江坂が中心ではないかと思っていた。

(F委員)

旭通商店街は新と旧という感じがする。旭通商店街は古い商売をしているという感じはしているが、新しいまちではある。力はあると思う。

(E委員)

旭通商店街を活性化させようとしていると、今度は江坂の方では江坂を商工業の核にしようとしており、一体どっちなのか。どちらを核にするのがいいのかという問題がある。このような吹田の二面性を払拭しなければ、とてもではないがJR以南は立ち行かなくなると思う。

(事務局)

産業の関係でみれば、「基本計画（地域別計画）〔案〕」の「第3章」の「I」の「第2節」の「4産業」の「②小売業商店数」では、JR以南、豊津・南吹田、「③小売業年間販売額」では、豊津・南吹田がこのような状況である。事業所の数でみれば、「①事業所数」に戻るが、豊津・南吹田が一番多い。産業の順番では豊津・南吹田、朝日町ということになる。都市計画において、駅周辺で拠点市街地と捉えた時にはどこなのかについては、基本構想を議論した時では、江坂駅周辺、JR吹田駅周辺であり、これで江坂と朝日町が入ってくるわけである。それ以外に拠点市街地としては、公共施設が集積している阪急吹田駅、レクリエーション施設が集積している万博公園地域ということである。そのような都市計画の部分からでも中心になるところと、産業の面からみて中心になるところと若干ずれおり、重なっている部分もあるが。

(F委員)

その通りである。小売業からみていくと旭通商店街である。情報産業等ではやはり江坂であり、新しいまちだと思う。

(C委員)

今江坂か朝日町かという話があるが、最大のポイントは市民がどのように暮らしてどのように働けるかということだと思う。それを考えていくべきであり、大きなビルが建ち、大企業が来るからそこが中心だという発想は、どちらかと言えば吹田では難しいのではないかと思う。そのような観点から言うと、江坂もあり旭通りもあるというこれしかないのではないかと思う。さらに千里ニュータウンもあり、その他にも吹田はかなりパッチワークのいいスタイルがあると思う。それぞれがやはり違うと思う。JR以南の方はやはり古くから住んでいるところがあり、昔の歴史伝統と繋がりがながらまちができてあがっているの、これはやはり大事にしなければならないのではないかと思う。新しい新興のまちではないわけであるので、一旦隆盛を極めたが落ちてきている。細々と続いていることは確かな話である。それは大事にすべきであり、そこで新しい動きもできてきており、それこそ産業にはあまり繋がってはいないが、NPOの話まで出てくると思う。子育て支援を行っている「子育てCoCoステーション」というところが旭通りで頑張っているなど、高齢者の頑張っている人がいるという動きも出ている。全体でどうかと言えば、非常に苦しいところはあるが、そのような意味で旭通りは頑張っただけでも生きながえていくように、新しい形でも生きながえていくように暮らしとまち、商業が一体となったところとして発展させるべきではないかと思う。それから、吹田の中心市街地はどこかとF委員も言ったが、昔の旧吹田

村の発祥はもう少し南の南高浜の辺であるので、私が浜屋敷に携わっているので余計に思っているだけかも知れないが、例えば「基本計画（地域別計画）〔案〕」の「第3章」の「I」の「第1節」の②で「歴史文化まちづくりセンター（浜屋敷）や旧西尾家住宅（文化創造交流館）を活用し、身近な地域の歴史・文化」と書いているが、「身近な地域の歴史・文化」だけでなく、これこそ「古い吹田の」と書いてほしい。これは少しひいき目にみているからかもしれないが、是非そのような言葉を入れ、それがこの地域を決定付けているのではないかと思うのである。

（H委員）

私も全く同意見である。つまり「①旭通商店街」と「②浜屋敷」を区別して考えること自体が、このまちの可能性を逆に狭めているのではないかという気がする。駅を降りるとどこの駅でも同じであるということも、実は吹田駅を降りた時の南側の風景は本当にそうである。そこからもう一つ乗り越えなければ本当にいい吹田の古い風景に出会えないのである。そうすると結局まちの中心はどこかということ、結局中心というものはそこから広がっていくものである。そのような意味で言えば、そこを真似したいような形であり、非常に広めないといけないところである。だから中途半端でいい加減で、右の良さも左の良さもということでは、これからのまちというものは、中心にはなれないと思う。せつかく浜屋敷や旧西尾家住宅という形で、古い日本の文化のようなものを確保して、このまちをつくっていかうとするのであれば、ある意味覚悟しなければいけないのではないか。もうそろそろ覚悟しなければいけないところにきているのでないかと私は思う。本当に徹底的に古い吹田でいくということ、まちの中心部まで、吹田駅のすぐ南までもってくるくらいの行政の覚悟をもち、デザインとライフスタイルといったような「吹田スタイル」をどのようにするのか、商業地に日常性の良さ、あるいはまちづくりセンターの良さを、一体どのような形で商業地域にも反映していくのかということを考えて上で、皆がそれを使っていくような、デザインのモデルのようなものをつくってもいいのではないかという気がする。

（部会長）

今言ったことについて実際の表現のところ、何か付け加える点や修正する点はあるか。

（H委員）

①と②の言葉は一体化しなければいけない。「日常生活の利便性を有した地域」ではなく、「吹田の歴史・文化が日常生活に活かしている地域である」というような表現をしなければならないと思う。

（部会長）

それは2つの地域を分けない方がいいという提案か。

（C委員）

③として書けばどうか。もっと上手く。「具体的な活用が必要である」としてはどうか。

（I委員）

今の意見はすばらしいと思う。

(部会長)

他に何かあるか。そろそろ時間もきたが、次回はあと残された2つの地域を中心に議論を進めていくということになると思う。それぞれ関連しているので、また他の片山・岸部地域や豊津・南吹田地域を議論する時に、JR以南の話が出てくる可能性はある。2つ議論するのでJR以南の話を出すといけないということではない。次回は中心を片山・岸部と豊津・南吹田として地域別のところを議論するという形になると思う。今日のところは、一応JR以南のところを検討したということで、そろそろ時間になったので、終わりにしたいと思う。

以 上